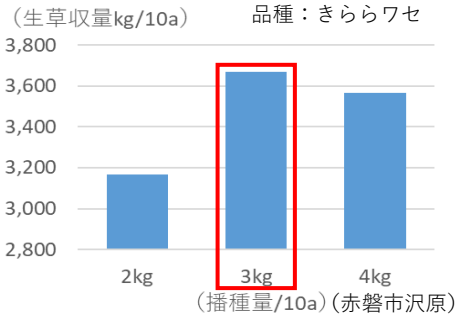
自　給　飼　料　生　産　で　安　定　収　量　を　得　る　に　は

自給飼料生産で安定収量を得るには、栽培する地域に適応した作付体系により、その地域の土壌や気候等に応じた品種を選定し、その品種の推奨される栽培方法に沿って栽培管理を行うことが大切です。また、定期的に土壌診断を実施し、作目に応じた施肥を行う、堆肥を有効利用するなど、土づくりに努めましょう。

自給粗飼料の給与

１　適正播種量について

増収のため、推奨される播種量より多く播く事例が見られますが、イタリアンライグラスについて、異なる播種量による収量への影響に関する実証試験を実施したところ、推奨される播種量より多く播いても収量は上がらず、推奨される播種量で十分な収量が得られました。



播種量別収量の比較

２　土壌診断を行うメリット

土壌の pH や養分状態などを測定することで、足りないもの・過剰なものを明確にすることができます。そのため、必要な肥料の種類・量を効率的に施肥することができ、肥料費を節減できるとともに、安定した収量を確保することができます。

３　雑草対策について

雑草の被害を防ぐには、まず、ほ場に雑草が侵入しないよう、①畦畔の雑草が結実する前に刈り取り、畦畔を適切に管理しておく、②完熟堆肥を利用するなどの方法が有効です。

雑草が侵入した場合は、(1)耕うんにより雑草を物理的に排除する、(2)除草剤を散布する、(3)輪作や田畑輪換により管理体系の差や土壌水分の差を生じさせ、雑草を相互に防除する、などの方法を組み合わせて効率的に防除しましょう。

スーダングラスにおいて、除草剤の散布による防除を実施したところ、強害雑草の発生は見られず、除草剤による防除の効果が確認できました。

○：強害雑草（ギシギシ）

除草剤による防除の効果の比較

（備前県民局畜産班）